

「平家物語」を読み、登場人物の心情や生き方に迫る

挑戦問題 なりきり「平家物語」に挑戦！

本単元で育成する資質・能力

知識・技能

情報収集・判断

思考・表現

挑戦・探究

- 1 対象・日時 第2学年A組 男子9名 女子8名 計17名
令和4年11月25日（金）第5校時

2 単元で目指す学ぶ姿（単元の目標）

- (1) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。[知識及び技能] (3) ア
- (2) 読むことにおいて、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。[思考力、判断力、表現力等] C (1) イ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

本単元における言語活動

「平家物語」を読み、本文を引用して人物像や人物の心情を解説したり解釈したりしたことを基に、朗読の工夫を考え伝え合ったり表現したりする。（関連：[思考力、判断力、表現力等] C (2) イ）

<単元の評価規準>

資質・能力		評価規準
知識・技能	知識技能	①作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3) ア
思考・判断・表現	情報収集判断	①「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。C (1) イ
	思考表現	

主体的に学習に取り組む態度	挑戦 探究	<p>①言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おうとしている。</p> <p>②積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを朗読 劇に表そうとしている。</p>
---------------	----------	--

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編の、C読むこと（1）イ「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること」、知識及び技能（3）ア「作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと」の力を、「朗読劇」という言語活動を通して育成することを目的として設定するものである。

「平家物語」は、平家一門の栄枯盛衰が叙事詩風に描かれており、仏教的無常観を基調とした人間の諸相が和漢混淆文で語られている。また、琵琶法師によって平曲として語られた成立経緯があるため、文字として読むだけでなく、音読、朗読に工夫を凝らしながら学習することに適している。

「敦盛の最期」では、若武者の平家の公達としてのプライドや潔い態度、それと対照的に、熊谷の苦悩する姿、後悔の念が描かれており、武士としての生き方や、一人の人間としての生き方を感じ取ることができる。戦いの場面は、生徒が想像するのに難しく感じる部分はあるが、事前学習も含めて、現代とは異なる価値観、現代にも共通する人間性を捉え、当時の世界に接することの面白さを味わわせたい。本単元では、本質的な問いを「古典作品を学ぶ意義とは何だろうか」と設定した。長い年月を経てもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもある。過去の時代を生きた登場人物と、現代を生きる私たちとを比較しながら、その時代を生き抜いた人々の生き方にも焦点を当て、朗読の工夫につなげていきたい。

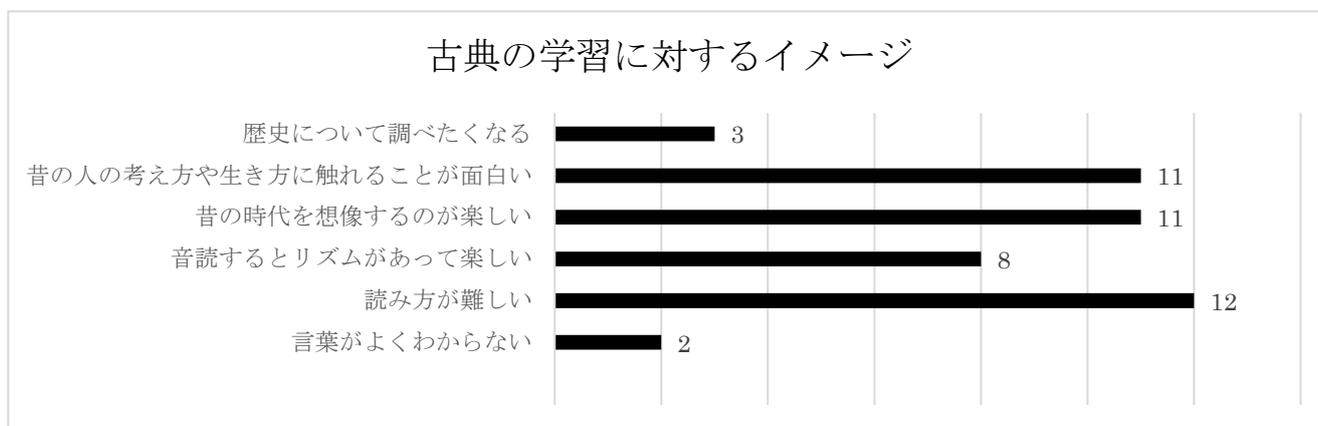
(2) 生徒観

本学級の生徒は、「平家物語」の学習の前に、第2学年で「枕草子」、「徒然草」を学習し、古典の音読に意欲的に取り組んでいる。グループ交流の際は積極的に意見を交わし、互いの作品の良さを素直に認め合って学び合おうとする姿がよく見られる。これまでの学習で、自分の考えを書いたり伝え合ったりする時には、叙述を根拠として意見を述べるよう「三角ロジック」を意識的に活用してきた。

2年生の古典学習に入る前に、事前アンケートを行うと、次のような結果であった。

内 容	当てはまる			当てはまらない		
	よく	やや	計	計	あまり	全く
古典の学習は好きですか。	1	12	76.4	23.6	3	1
古典作品を音読することは好きですか。	1	7	47.1	52.9	7	2
作品に描かれている、当時のものの見方や考え方に、共通点や相違点を見つけるなど興味を持ちながら学習を進めることができましたか。	4	10	82.4	17.6	3	0
学習した作品以外にも、古典作品を読みたいと思いますか。	14		82.4	17.6	3	

「古典の学習は好き」、「興味をもちながら学習を進められた」、「他の作品も読んでみたい」と肯定的な回答が概ね8割に到達しているのに対し、音読についての肯定的な回答は5割に達していない。さらに、古典の学習に対するイメージを尋ねた結果が次のとおりである。



歴史的仮名遣いや、古語の意味が分からないために、古典作品を音読することに苦手意識をもっているが、古文の音読はリズムがあって楽しいと感じている生徒もいる。そこで、タブレットを活用し、音読の練習を適宜録音させる。練習を積み重ねることで上達していく自分の姿を感じさせたり、友達と役割分担しながら古典特有のリズムで音読する楽しさを味わわせたりしたい。

本学級の生徒の読書活動について、独自アンケートや令和4年度広島県児童生徒学習意識等調査の生徒質問紙の結果が次のとおりである。

内 容	5回以上	2回～4回	1回はある	全くない
学習した内容に関連ある本を、探して読んだことはありますか。	12.5	12.5	31.4	43.6
内 容	3冊以上	1～3冊	1冊未満	読まない
1か月にどのくらい本を読みますか。	35.3	17.6	35.3	11.8

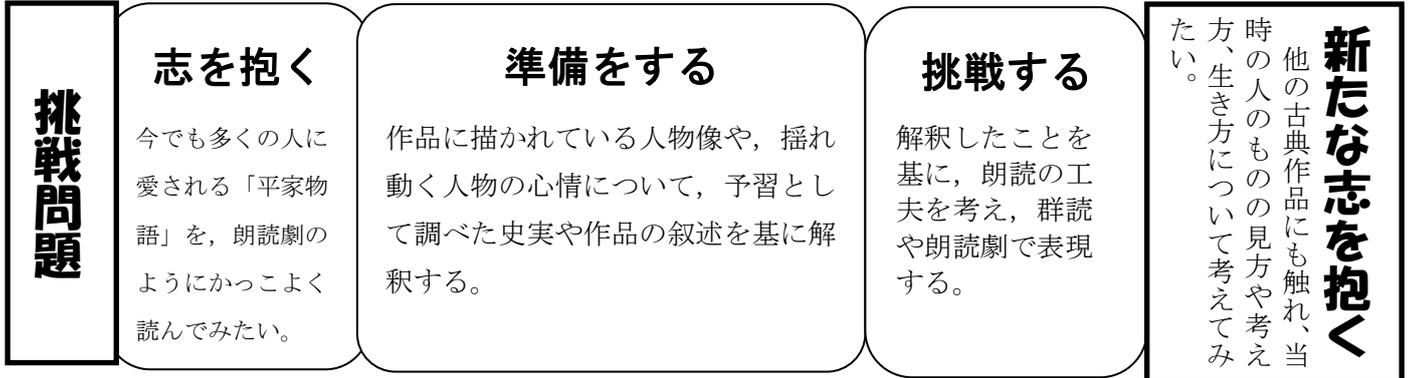
本校の図書室には「学年のおすすめコーナー」が常時準備してあるが、本を手取ることはあっても、読んだことはないという生徒がほとんどであった。今回の学習では、「平家物語」やその時代の人物の生き方について、事前に幅広い知識を得て学習に入ると読みが深まると考える。学習に入る前に、「平家物語」がどのような作品かを各自で調べさせたい。現代語で書かれた本や、歴史の本など複数の本に触れる読書活動につながると考える。

以上のことから、まず「精査・解釈」の学習を通して、理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりするような指導を行い、内容の解釈を深めていくことが必要と考える。そのうえで、「平家物語」の独特な漢文調の力強いリズムと、解釈したことを朗読に生かして、古典の世界に親しめるような指導をしていく。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の4つのポイントで授業改善を進める。

① 挑戦問題から始まる課題発見・解決学習の流れを次のように設定する。



② 言葉磨き

三角ロジックやロイロノートの思考ツールを使用し、自分の考えを筋道立てて形成し、他者に説明できるようにする。

③ ICTの活用

これまでの授業では、意見文や鑑賞文などの作品を交流し互いの作品を推敲し合ったり、スピーチや古文の朗読練習を録音して、よりよい表現になるよう考えたりすることにタブレットを活用してきた。今回の単元では、事前学習として家庭で取り組んだことをロイロノートに提出したり、グループで交流したことを全体に発表する場面でスクリーンを使用したりする。

さらに、音読したものを計画的に録音し、積み重ねていくことで、自分の音読が上達したことを実感させ、苦手意識を取り除きたいと考える。

④ 評価の工夫

自分の学びを調整しながら学習に取り組めるよう、毎時間の振り返りを大切にする。教科の目標に準拠した評価活動を行う。

4 単元と評価の計画（全8時間） 本質的な問い「古典作品を学ぶ意義とは何だろうか」

次	時	学習活動	知 技	思 判 表	主	評価規準【資質・能力】 (評価方法) ○評定として見取る評価 ●評定として見取らない評価
1	1	○挑戦問題を確認し、学習の見通しをもつ。 課題の設定 挑戦問題 「なりきり『平家物語』に挑戦！」 ○「なりきる」には、どのようなことが必要かを考える。 ○既習作品を扱いゴールを思い描く。 ○「平家物語」について、事前に調べてきたことを交流する。			○	【挑戦・探究】 ○目的意識と学習の見通しをもって「平家物語」について学習しようとしている。(発言, ワークシート)
	2	情報の収集 ○冒頭「祇園精舎」を音読し、「平家物語」を貫く無常観について理解する。 ○「敦盛の最期」がどのような場面かを知る。 ○登場人物を確認する。 ○音読を聞き、音読に挑戦する。ロイロノートに録音し、提出する。	○			【知識・技能】 ○作品の特徴を生かして音読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(ワークシート, タブレット)
2	3	情報の収集 整理・分析 ○「敦盛の最期」を、現代語訳と照らし合わせながら、人物像や心情について考える。 ・人物像や心情を考えていく上で根拠となる部分に線を引く。 ・予習として取り組んだ「平家物語レポート」を共有し、複数の情報を根拠としながら、人物像や心情について考え、どのような朗読がふさわしいかを考える。(個人)		○		【情報収集・判断】【思考・表現】 ○複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(ワークシート)
	4	思考・表現 ○前時に自分が考えた朗読の工夫を振り返りながら音読する。(ロイロノートに録音) ○発表原稿仕上げに向け、グループで協議する。		○		【思考・表現】 ○複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(ワークシート)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートの共有ノートを使い、それぞれが解釈したことを交流する。 ・交流したことを踏まえ、発表原稿に加筆・修正し、朗読の練習を行う。 ・全体で交流する。 <p>【本時】</p>			
5	<p>思考・表現</p> <p>挑戦・探究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かして、「那須与一」の群読発表の原稿を作る。(個人、グループ) 		○	<p>【思考・表現】</p> <p>○登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(ワークシート)</p>
3	<p>まとめ・表現</p> <p>○発表会を行う。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>○単元の振り返りを書く。</p> <p>○古典作品を学ぶ意義について、自分の考えをまとめる。</p>			●	<p>【思考・表現】【挑戦・探究】</p> <p>●積極的に登場人物の言動の意味などについて考え、学習課題に沿って考えたことを朗読劇に表そうとしている。(発表)</p>

5 本時の目標及び評価規準（4時間目／全8時間）

(1) 本時の目標（ねらい）

目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。

- ・教科の評価の観点……………『C（1）イ』

(2) 本時の学習過程

	学習活動	指導上の留意点（○） 「努力を要する状況」と判断した生徒への手立て（●）	評価規準 (評価方法)
導入 (10分) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">課題意識をもつ</div>	<p>○前時までの学習を振り返る。</p> <p>○「今日の音読」を録音する。 ロイロノートに保存する。</p> <p>○「音読」から「朗読」にするために必要なことは何かを確認する。</p>	<p>ICT 一斉</p> <p>○スクリーンに映し出して全体で確認をする。 (●登場人物の関係や背景などを簡単に振り返る。)</p> <p>ICT 個人</p> <p>●音読が難しい生徒には支援する。</p> <p>○詩「大阿蘇」で朗読した際、強弱、声色、高低などを使い分け、自分なりに解釈したことを、どのように表した</p>	

	○本時のめあてを確認する。	か想起させる。 ○話型を示し、本時のゴールを確認する。	
	めあて：登場人物になりきって、場面紹介するために自分の考えをもつ		
展開 (30分)	発問 登場人物になりきるために、どの場面をどのように解釈し、どのように工夫しますか。		
学びを深める	○予習として調べていた歴史的な背景や、本文の叙述など、複数の根拠を基に、 三角ロジック を用いて考える。 【個人思考】 ○ロイロノートの「共有ノート」を活用して、班で交流する。 【集団思考】 ○班で共有したことから、自分の原稿に加筆・修正し、選んだ場面の朗読を練習する。 【再思考】 ○説明と共に、朗読を発表する。	●考えるヒントとなる叙述を、ヒントカードとして提示する。 ICT 協議 ●友だちの意見を参考に、再思考へとつなげる。 ICT 一斉 発表する際、ワークシートをスクリーンに映し出して説明する。	『思考・判断・表現』 【思考・表現】 「複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈している。」 (ワークシート)
	<p>・私たちは（ ①・② ）の場面を選びました。では説明します。</p> <p>事実 この場面は、（ ）のような場面です。背景として、（ ）ことが挙げられます。また叙述には「 」や「 」に描かれてあります。</p> <p>解釈 これらから、この場面での（熊谷・敦盛）は、（ ）な心情だと捉えました。</p> <p>主張 （熊谷・敦盛）の（ ）な心情を、（高低・緩急…を用いて ）ように朗読するとよいと考えました。</p> <p>【朗読】 （熊谷・敦盛）の（ ）な心情は伝わったでしょうか。以上で発表を終わります。</p>		
	○発表に対する感想を述べる。		
終末 (5分)	<p>・作品の解釈の仕方によって、「朗読」の仕方にもさまざまな違いが出てくることがわかった。また、考えたことを基に朗読の練習をしたり発表を聞いたりすると、琵琶法師が語り継いだ「平曲」には、人物の会話から心情が生き生きと伝わり、それが人々を楽しませ広まったのではないかと感じた。</p>		
学習過程を振り返る	まとめ：登場人物の心情に迫るには、古典の背景をよく理解したり、複数の叙述を基に考えたりすることが重要である。		
	○次時は「那須与一」を学習することを予告する。		

本質的な問い 「古典作品を学ぶ意義とは何だろうか」

単元を貫く問い

「古典芸能で人気を誇る『平家物語』の魅力とは何だろうか。」



「平家物語」

め

登場人物になりきって

場面紹介するために自分の考えをもつ

源氏方

熊谷次郎直実

「手柄を立てたい」

平家

豪勢な装束の武者

「潔く引き返す」

◎朗読の技術

抑揚

声色

緩急

高低

強弱

間

ま

登場人物の心情に迫るには、古典の背景をよく理解したり、複数の叙述を基に考えたりすることが重要である。